

進捗状況報告シート

(2011年度・大学)

担当部局は ☆印の箇所を記入してください。

I. 評価項目・要素と担当部局

対象部局	総合政策学部
大項目	6 教育内容・方法・成果
中項目	6.2 教育課程・教育内容
小項目	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。
要素	必要な授業科目の開設状況 順次性のある授業科目の体系的配置 専門教育・教養教育の位置づけ(学部) コースワークとリサーチワークのバランス(院)
小項目	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。
要素	学士課程教育に相応しい教育内容の提供(学部) 初年次教育・高大連携に配慮した教育内容(学部) 専門分野の高度化に対応した教育内容の提供(院) 理論と実務との架橋を図る教育内容の提供(専院)

II. 自己点検・評価(2010.5.1～2011.4.30の進捗状況報告)

《目標・指標》

本項目において、2009年度～2013年度の中期的な「目標」と「指標」を次のとおり設定し、毎年度進捗状況の評価を行っている。進捗評価はA～Dの4段階とし自ら評価した。A～D評価は目安として次のようなものである。

- A : 目標実現のための計画や方策などを適切に実行し、目標を達成している。もしくはほぼ達成している。
B : 目標実現のための計画や方策などを概ね適切に実行しているが、まだ目標は達成していない。
C : 目標実現のための計画や方策などを実行しているが十分ではなく、目標は達成していない。達成にはまだしばらく時間がかかる。
D : 目標実現のための計画や方策などを実行していない。当然目標は達成していない。

2009年度に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
1. 質の高い研究発表を行うための教育プログラムを整備する。	→学部生を対象とした研究発表会「リサーチフェア」における審査基準の設定と参加者数の倍増。	B	B	/	/	/
2. 三田市等の小中学校の「国際理解教育」のサポートとして学生を派遣し、学部での学びを教育現場で実践する機会を設ける。	→「国際理解教育」をサポートする「ボランティア・ティーチャー」制度の有無。	B	B	/	/	/

☆

2010年度以降に設定した「目標」	左記目標の「指標」	進捗評価				
		2009	2010	2011	2012	2013
	→	/	/	/	/	/
	→	/	/	/	/	/

《現状の説明》 ※ 全小項目について記述が必要

小項目6.2.1	6.2.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、授業科目を適切に開設し、教育課程を体系的に編成しているか。 (説明) 実施方針に基づく授業科目を開設、編成しカリキュラム完成年次に向け概ね順調に遂行している。なお、教育課程での成果は様々なボランティア活動、フィールドワークを通し積極的に実践している。またリサーチ・フェアでは審査基準を導入し、発表レベルの向上に留意し教育研究活動の成果を広く社会に公開した。
☆ 小項目6.2.2	6.2.2 教育課程の編成・実施方針に基づき、各課程に相応しい教育内容を提供しているか。 (説明) 教育課程表として開示した内容に沿った開講科目、各科目のシラバスに沿った内容を提供している。三田市等の小中学校の「国際理解教育」のサポートとして学生を派遣した。また震災ボランティアとして、延べ60人を超す学生が短期間に自主的に他大学学生とも連携した組織を作り、社会貢献活動を活発に実践している。
その他	

《評価指標データ》

MDSプログラム履修者の全学生に占める割合
ジョイント・ディグリー制度への参加者の全学生に占める割合
専門教育、教養教育、外国語教育、情報教育等ごとの開設授業科目数

☆ 追加データがあれば追加してください。

◎効果が上がっている事項 ※目標の進捗評価が「A」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(1)》効果が上がっている事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	リサーチフェアでは2日間で計93件の発表が行われた。また3月、4月の2か月で延べ60名を超える学生が震災ボランティアとして活動し、また継続的支援組織を立ち上げている。
★小項目6.2.2	教育課程表に沿う開講科目を提供し、さらに社会的要請に対し教育課程が柔軟に応じている。例えば震災ボランティアの参加のため事前教育プログラムを複数の科目担当者が協力して制作し、インターネットで速やかに公開した。
その他	

【次年度に向けた方策(1)】伸長させるための方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	カリキュラム完成年次に向け引き続き予定される教育課程の提供を行い、履修モデル作成を通して、初年次教育から専門教育への体系化を引き続き進める。また教育成果の把握のため継続的な統計データの収集、分析の体制を構築する。
★小項目6.2.2	カリキュラム完成年次に向け引き続き予定される教育課程の提供を行う。リサーチフェアなどの社会への発表の場の整備に努め、参加件数の維持とレベル維持を図る。
その他	

◎改善すべき事項 ※目標の進捗評価が「D」の場合は必ず記述してください。

《点検・評価(2)》改善すべき事項 注)出来るだけ内容を裏付ける客観的根拠を記述してください。

小項目6.2.1	初年次教育から専門教育までの一貫した体系化には履修モデルが必要である。
★小項目6.2.2	
その他	

【次年度に向けた方策(2)】改善方策

注)出来るだけ手順や方法を明確にするなど行動計画を具体的に記述してください。

小項目6.2.1	初年次教育から専門教育までの一貫した体系化のための履修モデルを作成する
★小項目6.2.2	基礎演習での教員間での教材提供と電子化での共有を進める
その他	

◎自由記述

【点検・評価】&【次年度に向けた方策】

★その他 (自由記述)	教育向上のため、フィールドワークを中心とした実践的な学びを通して、学びへの動機づけ、キャリアとの関わりを履修モデルとして作成する
----------------	--

III. 学内第三者評価

<評価専門委員会の評価>

【学外委員】

○「目標」2や、「現状の説明」6.2.2の活動は、単位化されてカリキュラムに組み込まれているのでしょうか。そうであれば、教育方法上の工夫として、中項目6.3が適切でしょう。もしカリキュラム外の活動であれば、「ボランティア活動・教育」あるいは「社会貢献」の項目のほうが適切と思われます。

【学内委員】

○初年次教育から専門教育までの一貫した体系化を図り、履修モデルを提示することは総合政策学部の教育を明示するという意味でも重要なことです。改善すべき事項において記述され、すでに自覚されているところですが、早く成果が得られることを期待します。

○共同研究を実施することで学生の力があがり、総合政策学部の色合いが出て大変評価できます。

○ボランティア活動やフィールドワークの実践は評価できますが、全体像がつかめませんので、要素や大学基準協会の留意すべき事項に沿った説明が求められます。

【大学基準協会：評価に際し留意すべき事項】

○小項目6.2.1

基盤評価：「【学士】当該学部の教育における教養教育、専門教育の位置づけを明らかにしていること」「【修士・博士】当該研究科等の教育におけるコースワーク、リサーチワークの位置づけを明らかにしていること」「【専門職】当該研究科等の教育における理論教育、実務教育の位置づけを明らかにしていること」

達成度評価：「当該学部・研究科の教育課程の編成・実施方針に従い、学生に期待する学習成果の修得につながる教育課程となっている」(評価に当たっては、当該大学の説明・証明から、下記のことが明らかであるかに留意する。)

- ・方針と教育課程の編成・実施実態の整合性

- ・学生の順次的・体系的な履修への配慮

- ・各学位課程の固有の課題に応える措置(例えば、学士課程においては、初年次教育・高大連携への配慮など)

IV. 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

★6.2.2現状の説明に記入したボランティア活動は単位外の活動であるので、より適切な欄へ移動し、大学基準協会による留意点である、履修モデル提示を目標に入れた記述へ改めます。